



ROTARIANS
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン
奉仕に結束
平和に献身



会長 吉野 勲 幹事 板垣広志 クラブ奉仕 高橋良士 職業奉仕 飯野準治 社会奉仕 佐藤元伸 国際奉仕 阿蘇司朗 青少年奉仕 菅原辰吉

出席報告：会員 80 名 出席 58 名 出席率 76.12% 前回出席率 80.88% 修正出席 72 名 確定出席率 93.75%

会長報告

吉野 勲 君

年度も後半に入ったせいか、本日は特別に会長報告はございませんが、本日、次年度の各理事さん、委員長さんの指名が発表になっておるようですが、市川年度も迫って来た感じが致しております。私も残された期間、精一杯出来得る範囲で努めさせていただきますので宜敷くご指導下さいますようお願い致し会長報告といたします。

幹事報告

板垣広志君

○例会変更のお知らせ

酒田東R.C ポリオ・プラス・フォーラムのため

日時 3月17日(木) 午後5時30分

場所 酒田産業会館

登録料 2,000円

○松本空港R.C認証状伝達式のご案内

日時 5月29日(日)

場所 松本市音楽文化会館

登録料 12,000円

○会報到着 酒田東・東京・鶴岡西・鹿児島西R.C

○会長エレクト研修会

日時 4月3日(日) 12時30分

場所 福島 ホテル辰己屋

次年度の理事・役員及び委員会名簿の発表

会長エレクト 市川輝雄君

別紙の様に次年度の理事・役員及び委員会名簿を発表致します。

吉野年度も早いもので4分の3を経過し、第3コーナーにかかろうとしています。鞭をあげてホームストレッチにかかればゴールは忽ち目前であります。

新年度になればガバナーの公式訪問も当クラブあたりが真先でしょうし、準備は早いに越した事はありません。クラブ運営の成否は各委員会の活発な活動にあり、その企画立案で大体の評価が決まるとさえ言われています。委員長さんには大変ご苦労に存じますが、今から年間プランを考えておいて頂きたいと思います。

尚、参考資料を次の例会に各委員長に配布致します。活動計画の提出は5月中になると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

尚、今回の委員会構成は30周年記念行事委員会との関聯、今年度委員会との関聯などを充分勘案したものですので、ご諒承の上ご協力の程お願い致します。

又、新ターゲット

《ロータリーに活力を=あなたの活力を》
については、R.Iの方から詳しい通達があり次第ご報告致します。

新ターゲット ロータリーに活力を = あなたの活力を

庄内空港の建設を推進しましょう

1988～1989年度 鶴岡R.C理事・役員・委員会名簿

理事	市川輝雄(会長) 佐藤昇(副会長) 高橋良士(会長エレクト) 佐藤衛・迎田稔・松田士郎・碓氷節雄・吉野勲(直前会長)
理事会	市川輝雄(理事会長) 佐藤昇(理事副会長) 高橋良士(理事会長エレクト) 佐藤衛(理事) 迎田稔(理事) 松田士郎(理事) 碓氷節雄(理事) 吉野勲(理事直前会長) 若生恒吉(幹事) 斎藤庄治(会計)
役員会	市川輝雄(会長) 佐藤昇(副会長) 高橋良士(会長エレクト) 若生恒吉(幹事) 斎藤庄治(会計) 荘司俊治(S・A・A) 佐々木喆彦(副幹事)

常任委員会	特 定 委 員 会		
	委員会名	委員長名	委 員
クラブ奉仕 (理事) 佐藤昇	S・A・A	荘司俊治	加藤賢・村中文章・杉澤保吉
	出 席	秋野昭三	丹下誠四郎・板垣広志・中澤進
	職業分類	上野三郎 (3-1)	佐藤友吉・板垣俊次 (3-2) (3-3)
	クラブ会報	佐藤順治	毛呂健士・富田直治・日向一男 荒井宏明・松沢主一・川上栄樹
	親 睦	石川寿男	皆川光吉・飯野準治・鈴木肇
	雑 誌	黒谷正夫	阿部与十郎・吉野勲
	会員選考	庄司嘉男	津田晋介・笹原信一郎
	会員増強	中江亮	斎藤隆・佐々木喆彦
	プログラム	布施隆夫	菅原辰吉・関原亨司・鈴木茂男
	広 報	田中錦造	三井賢二
ロータリー情報	佐藤忠 (3-1)	三井健・新穂光一郎 (3-2) (3-3)	
職業奉仕 (理事) 佐藤衛			早坂徳治・佐藤元伸・矢部晋
社会奉仕 (理事) 迎田稔			阿蘇司朗・石井敬三・風間真一
国際奉仕 (理事) 松田士郎	国際青少年交換	藤川享胤	塚原初男・本山 弥
	ロータリー財団	張 紹淵	手塚林治・玉城俊一
	米山奨学会	小池繁治	諸橋政潰・山本順一
	世界社会奉仕	山口篤之助	石黒慶之助・高橋良士
青少年奉仕 (理事) 碓氷節雄	姉妹クラブ	斎藤 昭	内山喜一・鈴木弥一郎
	青 少 年	松山俊三 (3-2)	笹原桂一・秋野 忠 (3-1) (3-3)
	インターアクト	佐古田義明	鈴木善作・中野清吾・清水二郎
	ローターアクト	高田耕助	三井 徹・忠 鉢 徹・斎藤寿一
備 考	パストガバナー 石黒慶之助 地区委員 国際奉仕委員会 国際青少年交換小委員会 藤川享胤 庄内分区代理 新穂光一郎 30周年実行委員長 三井 徹 副委員長 小池繁治		

創立30周年記念事業委員会より検討状況報告

委員長 風 間 真 一 君

63.1.5 例会後委員会開催。1月19日まで各自案を持寄ることとする。

1.19 例会後委員会開催。いくつかの案について話し合われたが、更に2月2日のたら汁会の前に集まって話し合うことにする。

1.21 小松広穂委員長急逝されたため、2月2日の会合が2月9日に延期された。

2.9 例会前委員会開催。風間真一が推され委員長となる。

この日の話し合いの中で出された“西郷南州先生の書の石碑を建てる案が大方の賛意を得られたために、先づはこれを第1案として、その可能性を検討することになった。

2.16 例会後、委員長は佐藤昇委員、若生次年度幹事に同道を願い、鶴岡市佐藤助役、池田計画管理課長を訪ね、記念事業の主旨、委員会の案としての南州先生の書の石碑建立のこと、更に書については酒井家に伝わる“国国国国”とする考えなどを説明した。市当局ではその構想を諒承され、その設置場所については、産業会館筋向いの“タブの木”のある角地ではどうかのご提案あり、私どもも同所は例会場の至近距離にあり、今年から来年にかけての“花と緑の環境整備地区”であるために、来年4月の記念日には周辺も含めて整備される予定であり、適地であると判断し、そこを候補地として市側の計画にスケジュールを合わせるために今年4月中に当方のプランも固めるよう話し合いを進めることになった。

63.2.23～2.29 設計担当の佐藤昇委員と石工事担当の鈴木茂男委員に再三にわたり協議願い、予算（140万円）の範囲内で考えられるベターな案を作成願った。

63.3.1 例会後委員会開催。経過報告し、了承を得るとともに、作成された案によって意見交換を行った。

大筋において委員各位のご理解が得られたので、この案をもとに、更に市当局と折衝することとなった。

3.2 委員長は、佐藤昇委員、若生次期幹事に同道を願い、市の池田計画管理課長を訪ね、私共の案を示して、市側の計画との調整をお願いした。

委員長は致道博物館に酒井忠明氏を訪ねロータリークラブの記念事業として酒井家ご所有の“国国国国”を使わせて頂くことについてお話し申し上げ、差支えないとのご+意を頂いた。

以上は経過報告であります。委員会の当初に於ては会員各位にアンケートしてご意見を頂くことも考えていたのですが、今、申し上げた案が他の案よりも賛成意見が強く、又、事前に行政側との調整を要するなど、具体的検討が先になったために内容がかなりつまってから皆様にご報告となったことは、止むを得ないこととはいえ申し訳なく存じております。

市側との調整の時間も若干は残されておりますので、何かご意見がありましたら、私までお話を下さるようお願い致します。

尚、市側に提示しておりますプランをご参考まで回覧致しております。



生を明らめ死を明らむ

藤川 享 胤 君



今日は「生と死」についてお話し申し上げます。

過日、日本医師会倫理委員会に於いて脳死を個体死として認識するという方向づけがなされました。どうしてこの問題が大きく社会的にクローズアップされた

かと申しますと、近代医学の急速な進歩によって逆に生じた、死の判定の規準を脳死におくか、個体死におくかで人道的に、かつ倫理的に医学界を含んで社会的にも大きく揺れ動いたからであります。と申しますのは、今から約十数年前までは脳死の状態がすぐに個体死に移行していたのであります。それが医療技術の進歩によって生命維持装置なるものが開発され、一昔前では手のほどこしようがなかった脳死という状態を植物の人間の状況ながらその生命を完全なる個体死にいたるまで維持できる様になったからであります。しかし、それは当然いい悪いかは別にして、人間らしい意識を持った生の存続ではないのであります。では、どうしてこの脳死と個体死という時間の差が死の判定に大きく関与するかと申しますと、その裏に臓器移植という医学界の永遠なる命題が存在しているのであります。つまり、臓器移植をおこなう場合、臓器提供者が脳死であるか個体死であるのかは、そこに雲泥の差が生じてくるのであります。勿論、脳死の状態での提供を受けることが最適であることは言うまでもございません。ではなぜ、その方向にスムーズに移行しないかと申しますと、提供者の家族の感情的な問題と、脳死の判定を下す医師のスタンププレーとモラルの低下を危ぶむ声が医学界の内外に充満しているからであります。医師のモラルの問題は別にして、私個人としては、脳死に於ける臓器移植に大いに賛成なのであ

ります。

世の中には心臓をはじめとしていろんな臓器の疾患や、目の不自由な方が数多くいらっしゃることは皆様御承知のとおりであります。この世の中で人間としての生の存続が不可能と判定されても、なおかつ自分の肉体の一部が他の人々の為に活用が可能ならば、喜こんで使っていただきたいと私は心から思っておるのです。現在国際ロータリーではポリオ・プラス計画を実施しております。これも素晴らしいプロジェクトに違いありませんが、お金を使わず吾身一つで世の人々の為に奉仕出来る臓器の提供にもっと積極的に対処していくべきではなからうかと思っております。まさに国際ロータリー 100 万の友が先頭に立って、手に手を取り合って!!

さて、私共の宗門に修証義というお経がございます。これは宗祖道元禪師が著わされた正法眼蔵の中から特に大事なエキスを抜粋して、口語体で著わされたお経であります。その第一章総序の冒頭に「生を明らめ、死を明らむるは仏家一大事の因縁なり…」とございます。生死を明らかにすることが仏教では大変大事なことであるという意味でございます。私共は生と死ということをあまりにも対称的に考えがちであります。生は御目出たいことで、死は不浄（不祝儀）であるといった具合に……死が不浄なものであるという観念は、家族に死者が出た時、神棚に目かくしをして、その不浄さを神様に見せないといった全くナンセンスな迷信が今日でも、なんの疑問もいだかせずに行なわれていることでも御理解いただけたと思います。それはあたかも東京ですら友引きに火葬を行なわないと同じ様に……。

ところで、仏教の素晴らしきは生死を二極的に対峙して観ないというところにあるのです。この世の中で唯一の死なない方法は？ そうです、この世に生まれてこなければいいのです。つまり人間をはじ

めとして、この世に生を受けたものは間違いなく死ななければならないのです。個人差によって早い遅いはあるにせよ。「何人にも公平に死がやってくるならば死の心配はしなくてもいいよ!!」というのが仏教の教えの基本であります。どうして死の心配をしちゃいけないかと申しますと、考えても詮なきことを考えるのは無用の長物だからであります。大事なエネルギーの損失だからであります。否むしろ今というこの大事な一時に生きることができないからであります。生を受けて以来与えられた一時一時を精一杯生きれば自然と死（仏教ではニルバーナ安楽の世界という）が向こうからやってきますよというのが仏教の生死の観方であります。しかしそう言うものの、私共はなかなか死の恐怖からぬけだすことが出来ないのです。どうしてぬけだすことが出来ないかと申しますと、それは何人も未だかつて生きながら死の世界に行ったことがないからです。あの世とやらがこの世より楽しいことがわかっていたら、誰でもあの世とやらに行くことを躊躇するはずがありません。どんなところかわからないから皆が不安なのです。では、仏教では死の世界をどの様に考えているかお話ししてみたいと思います。その前に仏教では全ての事象を因果（原因・結果）の法で解明することをおぼえておいて下さい。この世に生を受けることを仏教では生有と申します。生を受けたということは因果の法に照すと結果ですね。そうすると、どうして生を受けたかという原因が必ずあるはずで、この場合の因はこの世に生まれてこようとする目に見えない猛烈なエネルギーです。それを無明と申します。この因である無明に父・母という男女の縁が重なると初めて果として生命が誕生するのであります。男女の結びつきが生命の誕生の因にならないのは、結ばれたからといって必ず受精するとは限らないことで明白であります。まさに縁が熟さなければ生命の誕生はありえないのであります。生まれてきた私共は死ぬまでこの世で生活いたします。この世界を本有と申します。そしていつの日か誰にでも死がやってまいります。これを死有と申します。無明に対して果であった生は、死に

対しては因になります。まさに先程申しました様にこの世に生まれてきたから（原因）死ななければならないのです（結果）。この時の縁が病気とか事故になる訳であります。そうすると人間は一度死んでしまったらそれっきりかと申しますと、そうではなくて、再度生まれかわってくるとされておるのです。この考え方を輪廻転生といいます。では、いつ生まれかわることができるかと申しますと、一番早い人で亡くなってから四十九日目であります。亡くなってから再度生まれかわることが出来るとされる四十九日目までを中有、又は中陰といい、四十九日目を満中陰と申します。この間私共の肉体はなく、ただ意識だけの存在なので、この状態を意生身と呼びます。肉体がありませんから空腹をおぼえることがありません。ですからこの間は香だけを食するだけで充分なのです。逆な言い方を申しますと、実は私共の為に遺族や友人達が焚いてくれるであろうお線香だけが頼りなのです。さて、いよいよ次の世界に生まれかわれるという四十九日目がやってまいりました。ではいったい私共はどこに生まれかわることができるのでありましようか。次の六つのどこかの世界に生まれ変わるとされております。その六つとは、悪いほうから申しますと、地獄・餓鬼・畜生・修置・人間・天上の順になっておるのであります。人間は上から二番目のところですよ。さて、皆さんは次の世でどこに生まれかわることができるでありましよう。それが一番大きな問題になってくるのであります。人前でツッパル以外は誰だって本音は出来れば地獄なんかには行きたくないですよ。ではどこに行くかはどうやって決められるのでしょうか？そうですよ!! 皆さんもうおわかりですね。それは皆さんがこの世でなされた皆さんの業によって決定するのであります。

与えられた時間がなくなりました。この続きはまたいつか。

藤川合掌

スマイル

- 佐藤 衛君 クラブのマーじゃん大会に優勝。荘内銀行の笹原頭取、上野会頭、東北電力の杉澤所長、山銀の山本支店長、楽しいマーじゃんでした。
- 日向一男君 ガバナー月信に鱈汁会の写真が載り、又久しぶりに床屋に行き、良い男になりました。
- 中沢 進君 私もガバナー月信に日向君と同じく半身だけ載りましたので、半分だけスマイルをさせていただきます。
- 塚原初男君 父親が動脈りゅうの手術に成功しました。
- 富田直治君 長女が田川地方珠算大会の小学校の部門で優勝しました。
- 佐々木喆彦君 新入会員と皆さんの歓送迎会に沢山の会費をいただき余りましたので、その分をスマイルします。
- 丹下誠四郎君 親睦委員会主催のマーじゃん大会

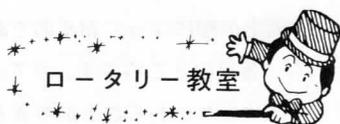
に多数出席いただきました。又、長男が無事高校を卒業しました。

これからのプログラム

- 3月15日 ゲストスピーチ 現場の声④
鶴岡警察署刑事第二課 大川課長
- 3月22日 新入会員スピーチ
荒井宏明君・松沢圭一君
川上栄樹君
- 3月29日 ゲストスピーチ
竹の露社長 金野松弘様
- 4月5日 会員スピーチ 業界シリーズ②
庄内ミート㈱専務 斎藤 昭君
- 4月12日 会員スピーチ 業界シリーズ③
NTT局長 田中錦造君
- 4月19日 会員スピーチ 業界シリーズ④
荘内証券 高田耕助君

ビジター

鶴岡西R.C 桜井 晋君



(R.Iニュース第6号より抜粋)

クラブ相談室

- 問 私たちのロータリークラブの会員2人が他の奉仕クラブにも入会している、ということが最近明らかになりました。これは許されるのでしょうか？
- 答 このような二重会員には強く反対します。ロータリークラブの会員の義務に従うために、ロータリアンは、他の奉仕クラブに入会して自分の関心やエネルギーを分散させてはなりません。この会員たちが、クラブにおいて義務を果たしていない

とクラブ理事会が判断したなら、会員身分の終結という結果にならざるを得ないでしょう。

問 ほとんどの会員が商用で市外にいる週の例会を取り消すことができますか？

答 できません。例会は、クラブ細則に定める曜日と時間に、毎週1度、開かれなければなりません。緊急の場合（例えば、災害またはクラブ会長の死去）または法定休日の場合にのみ、例会を取り消すことができます。標準ロータリークラブ定款第4条を参照して下さい。旅行中の会員は、もちろん、他クラブでメークアップしなければなりません。